

卒業生のいま



わか しん りょう こ
大津市立瀬田南小学校 教諭 若新 涼子さん

■ Profile 福井県三方上中郡若狭町出身。平成23年3月、滋賀大学教育学部学校教育教員養成課程障害児教育コースを卒業。在学中は女子バスケットボール部のマネージャーとして活躍。初任校は大津市立藤尾小学校。3学年・6学年・1学年を担任し、2年目に体育主任、3年目に環境主任・学年主任となる。同26年4月、大津市立瀬田南小学校へ転任。4学年を担任し、体育助手を務める。何事にも素直で前向きに取り組む努力家。

教員免許状を取得するため、勉強に明け暮れた大学時代 多くの人を引きつけられる、魅力ある教師をめざしたい

■ 多忙だが充実していた学生生活

特別支援学校の教師をしている母の職場でボランティアをしたことがきっかけで、障がい児教育に興味を持ちました。国公立で教育学部のある大学を探していましたが、滋賀大は教員採用率がとても高く、障がい児教育コースもあることから、「ここに行きたい!」と強く願うようになりました。

私は推薦入試だったので、小論文と面接の練習が中心でした。本番ではとても緊張しましたが、高校の先生から「お前にきらりと光るものがあれば採ってもらえるから」と励まされたのを思い出し、笑顔で乗り切りました。

「大学はとても暇」と聞いていたのですが、いざ入ってみると、部活にバイトに勉強にと大変忙しく、特に勉強が大変でした。

でも、部活の先輩から試験の傾向と対策や過去問を教えてもらい、無事、中学校国語1種・小学校1種・特別支援学校(知的障がい者・肢体不自由者・病弱者)の教員免許状を取得しました。多忙でしたが、とても充実した4年間でした。



■ 教師としての強みを見つける

小学校の教員になって4年目になります。採用試験前には勉強熱心な友達とグループを作り、集団面接や模擬授業の練習をしていました。「みんなが頑張ってるから私もやらなあかん」という気持ちになりましたね。模擬授業に選んだ教科は保健体育。どの単元が出てもいいように、単元ごとの指導案を作成して毎日繰り返し授業の練習をしたことが、本番でとても役立ちました。



初任校である藤尾小学校は京都と滋賀の境にあり、全校生徒200数名の小さな小学校ですが、子どもらしい素直な子ばかりで、保護者の方も学校に協力的でした。ベテランの先生方のご指導やご助言のもと、2年目には教科主任をさせていただくなど、小規模校ならではの貴重な体験は、私の宝物になっています。

現在、勤務している瀬田南小学校は、生徒数800余名のマンモス校。人数が多いだけに、埋もれてしまわないよう、人を引きつけることのできる自分の強みを早く見つけたいですね。

■ 積極的な人との関わりを大切に

滋賀大は本当にアットホームで、職員の方もとても親切。実家を離れて一人暮らしをしていた私は、そのあたたかさにとだけ助けられたかわかりません。これからもその雰囲気をつくさないでほしいです。大学生活は人生の中でも特別な時期。たくさん勉強して、たくさん遊び、積極的に人と関わるなかで得られることを大切にしてほしいと思います。



ほり いけ ゆう さく
滋賀県教育委員会事務局 スポーツ健康課 堀池 祐作さん

■ Profile 大津市出身。平成19年、滋賀大学経済学部経済学科卒業。同20年4月、滋賀県職員として採用され、「南部振興局農産普及課」に勤務。同23年4月、「土木交通部監理課」に異動。同26年4月より、「スポーツ健康課」へ。課内の予算編成や経理用務、関係団体への補助金用務等を担当。高校時代は野球、大学時代はラグビー部に所属し、現在は職場の仲間と野球を楽しむバイタリティーあふれるスポーツマン。一児の父。

地域に育てられた恩返しがしたくて県職員の道へ 滋賀県の知名度アップにも貢献したい

■ 一浪覚悟で公務員試験に挑戦

「大学に行くなら学費が安い国公立へ」という両親の希望もあり、高校の先生からも「就職率が高く、地元で行きやすい大学」と強く勧められ、滋賀大学を志しました。朝は6時に家を出て部活をやって帰宅後はバイトに行くという忙しい毎日でしたが、とても充実していました。勉強した記憶はあまりありません(笑)。

就職について考えた時、地元で育ててもらったという気持ちがとても強く、県職員になって滋賀県に恩返しがしたいと思うようになりました。

進路を決める時期が遅かったこともあり、一浪覚悟で地方公務員試験に挑みました。浪人中は公務員試験のための予備校に通い、規則正しい生活を心がけました。経済学部は公務員試験の科目と重なる授業が多く、その点は勉強しやすかったですね。

■ 心強かった「ブラザー・シスター制度」

最初に配属された「南部振興局農産普及課」(現「大津・南部農業農村振興事務所」)では、「環境こだわり農産物」の認証事務



などの仕事をしていました。農家さんやJAなどから申請された農産物が化学肥料や農薬の使用基準を充たしているかを審査するのですが、農業の現場で働く方々と接する機会も多く、人の声を聞くことの大切さを学びましたし、琵琶湖の環境保全にも役立つ仕事でしたので、やりがいがありました。

また、新規採用職員には必ず先輩職員がついて気軽に相談できる「ブラザー・シスター制度」というサポート体制があり、心強かったです。



■ 外へと踏み出す積極性をもって

「土木交通部監理課」への異動は、出先機関から本庁で部内の主管課勤務になったことで仕事の内容が全く異なり、とまどいもありました。部内の予算編成は監理課が行っているため、部全体の動きを把握する必要があり、業務にもスピードと正確さが要求されるなど、慣れるまで大変でした。関係の規則やルールなどを勉強しながらの毎日でしたが、多くのことを身につけることができました。

現在の「スポーツ健康課」は入庁以来、配属希望を出し続けていた部署。滋賀県では今年度から「スポーツと文化の10年」がスタート。10年後に滋賀県での国体開催も決まり、スポーツの振興を通じて県民の皆さんのお役に立てるよう、頑張りたいです。

私にとっての滋賀大は社会に巣立つ前の自分をインキュベートしてくれた大切な場所。アットホームな雰囲気に助けられた部分も多かったけれど、積極的に外に向かって踏み出し、コミュニケーション能力を培ってほしいと思います。